

※ 緑文字は職員へのアンケートを実施して成果を検証するものです。同様に、青文字は児童生徒へのアンケートで、赤文字は保護者へのアンケートで成果を検証します。

平成28年度 西都市立三納小中学校自己評価書

【評価基準】 4～期待以上 3～ほぼ期待どおり 2～やや期待を下回る 1～不十分

領域	評価項目	区分	評価指標または数値目標	結果	学校の自己評価と改善策	自己評価 指標別 総合	学校関係者評価委員のコメント	評価
I 確かな学力の定着	① 学習指導の工夫改善	共	a 学業指導（立腰・発表・視写等）を徹底させる。 b めあてとまとめのある授業を実践する。 c 授業時間中に習熟の時間を必ず入れ、「わかりやすい」「楽しい」と答える児童生徒を70%以上にする。 d 「家庭学習の手引き」を活用して、毎日家庭学習をする児童生徒を90%以上にする。 e 乗り入れ授業の実施により、中1ギャップをなくす。	a だいたい守られているが、徹底までには至っていない。 b ほとんどの職員が実践している。 c ほとんどの職員が習熟の時間を入れており、「わかりやすい」と答えた児童生徒は90%近く、「楽しい」と答えた小学生は80%、中学生は85%だった。 d 「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習に取り組んでいる児童生徒は75%前後である。 e 継続した実施により、ギャップはほとんどない。	○ ほとんどの職員が「わかりやすい」授業を実践しており、子どもたちも100%近くが「わかりやすい」と答えている。順調に進んでいるので、今の状況を続けていく。 d 「家庭学習の手引き」を活用して学習する習慣が定着しているので、活用に関する変容があまり見られない。	3.11	○ 参観日等、授業の様子を観る限り子どもたちの学習態度がすばらしい。挙手も進んでできている。また、各学級の先生方が授業方法を工夫し、分かりやすい授業に取り組んでいる。 ○ 中学校の学力は児湯地区管内で常に上位であり、先生方が日頃小中で連携して学力の向上に取り組んでいる様子が伝わる。	4
		小	f チャレンジタイムを活用して、基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、学力調査等で、全国平均以上にする。 g 五七五集会を充実させ、宮日こども新聞に投稿する。	f チャレンジタイムの回数が増え、繰り返し学習することで効果が現れつつある。 g 五七五集会は計画的に実施できた。新聞への投稿はできなかった。	f どの学級でもチャレンジタイムの時間を学力向上につながるような取組にしていく。 g 投稿する手間を省くようにして、計画的に投稿をする。	2.92		
		中	h 全国や県、西都児湯地区で行われるデスタにおいて、管内上位にする。	h 中学3年生は、常に上位の成績を保っている。中学2年生は、県平均を上回っている。	h 現在の取組を継続し、学力向上に努める。	3.31		
	② 視聴覚教育・図書館教育の充実	共	a 授業で、パソコンや大画面テレビ等の視聴覚機器を活用する。 b 教室内や廊下等の掲示物を充実させる。 c デジタル教科書を効果的に活用するための研修会を実施する。	a ほとんどの職員が視聴覚機器を活用して、授業している。 b 掲示物は小中計画的にできている。 c 中学校はデジタル教科書がまだ全教科そろっていない。	c 中学校にもデジタル教科書が入り、利用率が高まっている。	3.28	○ メディアコントロール、親子読書のアンケート結果によくない傾向が見られるが、他校の状況と比較してどうなのか。 ○ 小中一緒に使う図書館の環境は望ましいものになっているか。中学生が自主学習等に活用できるものにするために、中学校スペースのような環境をつくれればもっと図書室利用が増えるのではないか。 ○ 全校で読書感想文コンクールに取り組む等、本に親しむ機会をつくるとよいのでは。 ○ 参観日の様子を見ると、ICTの効果的な活用が図られていると感じる。 【学校からの回答】 ○ 日常生活を送る上でメディアは欠かせないものになっている。今後の目標をノーメディアデーからノーメディアタイムに変え、学習に集中して取り組ませたり、家族との団らんの機会をつくったりするよう呼びかけていく。 ○ 図書館の環境設備を魅力あるものにするとともに、児童生徒が読書に親しむ機会が増えるように取組を工夫する。	3
		小	d 毎月の貸出状況の集計結果を活かして、読書活動を推進する。 e 親子読書に取り組む家庭を70%以上にする。	d 各学年の多読賞の紹介をしたり、委員会で読書郵便を行ったりするなど工夫ができた。 e 親子読書に取り組んでいる家庭は58%程度である。	e 親子読書の実施方法の改善を進め、取り組む割合を増やしていく。	2.54		
		中	f 各自が1か月に1冊以上の本を読む。	f 中学1年生は、読書の時間等を利用して、よく読書している。中学2、3年生は、個人差が大きい。	f 目標が達成されるように、図書室利用の推進を図る。	2.89		
	③ キャリア教育の推進	共	a ふるさと学習（さいと学）を充実させる。 b 地域の自然や文化的素材、人材を教育活動に積極的に活用する。 c キャリア教育の研修を計画的に実施する。	a 中学校は職場体験、小学校は各学年が計画的にさいと学を実施できた。 b 1学期はなかなか地域の自然等を積極的に活用することができなかった。 c キャリア教育の研修は、1学期・夏季休業中に実施できなかった。	b ネイチャーゲームや竹細工、ウォークラリー、地域探訪など地域の自然や人材活用が図れた。 c 来年度はキャリア教育の全体計画を元に年間計画を作成する。	3	○ 学校の教育活動に地域素材（人・こと・もの）を活用して学習が進められている。 ○ 三納中を卒業した高校生が中学生に高校生活について話す機会はあるのか。 【学校からの回答】 ○ 小中学校ともに、地域の皆様の協力のおかげで、子どもたちにとって、有意義な体験活動を実施することができている。いつも感謝している。 ○ 卒業生による高校生活の話は毎年夏休みに実施している。中学生にとって、高校進学へのイメージをもたせることにつながり、中学校のうち何（学習面や生活面等）を準備しなくてはならないか知るよい機会になっている。	3
		小	d 係や委員会活動ができているという児童を80%以上にする。 e 家での手伝いができているという児童を70%以上にする。 f 将来の夢や希望をもって学習や生活に取り組んでいるという児童を80%以上にする。	d アンケート結果では、91%以上の児童ができていると答えた。 e アンケート結果では、70%以上の児童ができていると答えた。 f アンケート結果では、85%以上の児童ができていると答えた。	○ 現在の取組が継続するようにしていく。	3.31		
		中	g 外部講師による講話等を組み入れ、進路指導を充実させる。	g 中学3年生は、面接指導の前に、西都商業高校の先生に来ていただき、礼法指導をしていただいた。中学2年生も日章学園高校の先生から礼法指導をしていただいた。	g さらに充実を図っていく。	3.36		